

一般助成 子どもの健やかな成長を願う事業(みちびき・はぐくみ)

「地域で支える、不登校児童への包括的支援」事業

不登校や中途退学になった子どもたちに 地域交流や情報提供を通じて安心できる場を提供

子どもたちの教育に関する問題は年々複雑化し、不登校生徒や高等学校中退者は増加傾向にある。そうした不登校や中途退学者への支援は、その後、引きこもりに発展することを予防することにも繋がる。進路や就職などに悩みを抱える不登校の子どもやその保護者に向けて、必要な情報を届け、支援の場を提供することに取り組む団体がある。



小・中・高の不登校児童・生徒に対する居場所と学習の場の提供を目的とするフリースクール「もりさば」



キャリア教育を含む学習の場として 新しい形のフリースクールを開所

「若者を社会にひらく、社会を若者にひらく」を活動理念に掲げ、岩手県・盛岡の地で活動をしている「もりおかユースポート」。同団体では、引きこもりやニートなど様々な原因で社会との関係性が薄くなった若者たちを、心理面・行動面から支えて社会に導いていく一方、社会の側も若者を理解し、彼らが参加しやすい環境を整えることで社会参加を促し、若者たちが働き、暮らせる社会づくりを目指している。

同団体では、何らかの課題や事情を抱え、不登校になったとしても将来の進路や職業選択について少しでも考えられる場があれば立ち直りへの一歩になる可能性があるし、そのためには学校での基本的な勉強だけでなく、社会参加や地域との交流も必要であり、新たなフリースクール

の形としてキャリア教育を含めた学習の場が重要と考えていたという。しかしながら、フリースクールを利用したいと思っている生徒のなかには、経済的に困窮している家庭も多く、フリースクールを継続するためには利用料の徴収が必要であることから、必要な児童・生徒に支援を届けることが困難な状況にあった。

そうした課題を解決すべく、POSCの助成を受けた同団体では、小・中・高の不登校児童・生徒に対する居場所と学習の場の提供を目的とするフリースクール「もりさば」を開所し、個別の学習支援を中心とするボランティア大学生との交流や、高校生においては地域の商店街などと連携し、ボランティア体験などの社会参加を通じた交流を実施した。他にも、学校や教育委員会、支援機関などと連携しながら、不登校生徒を抱える家族の相談、進路合同説明会、『進路ナビブック』の作成などの事業に取り組んだ。

進路について悩む生徒や保護者に 合同説明会やパンフレットで情報提供

「もうひとつの進路合同説明会」と題された進路説明会は、通信制／単位制の高等学校、特色のある高等学校、就労支援機関、引きこもり支援機関などが集まり、ブースに分かれて個別相談ができるもので、保護者に向けても教育資金の貸付制度の紹介や経済的な相談を行った。2020年9月12日に開催され、中学校生徒、その保護者、教育機関などの関係者が55名参加したが、ここで通信制高校の仕組みや取り組みを直接聞くことで進路について考える機会となり、実際に進学に繋がったケースもある。

『進路ナビブック』とは、進路が決まらない中学生や高等学校中退者に向けて、就労支援機関、通信制／単位制の高等学校、地域の相談支援機関、利用できる制度などをまとめたパンフレットだが、同団体ではそれを作成し、

県内の中学校、高等学校、県および各市町村教育委員会、行政窓口、各支援機関などを通じて配布した。

「キャリアに関する学習も含めた新しい形のフリースクールは教育委員会より、その取り組みについて高い評価をいただいた。もうひとつの進路合同説明会では、これまで進路選択に悩みを抱えていたため大いに助かったという声があったほか、複数回の開催や他地域での開催を希望する声もあがり、その必要性を感じた。また、進路ナビブックは進路選択のひとつとして役に立ち、活用しているという声が寄せられた」と、同団体では事業の効果や手応えについて振り返る。必要な人へ、本当に必要な情報を届け、具体的な支援の場を提供することこそが、いま求められている。



通信制や単位制の高等学校、就労支援機関などが集まった個別相談会を開催



助成団体: 特定非営利活動法人 もりおかユースポート

<http://my-port.jp/>



今回の助成で必要な人へ必要な情報を届けることができました

今回の助成を受けて当法人で取り組んだ「地域で支える不登校児童への包括的支援」において、必要な人へ必要な情報を届けることができたと感じています。この取り組みは、今も続けています。

特定非営利活動法人 もりおかユースポート
主任 菅原 征和さん